

事業コード	H18-農-終-4		区 分	国庫補助 県単独
事業名	林道事業		部局課室名	農林水産部 森林整備課
事業種別	流域循環資源林整備事業		班 名	林道班 (tel) 018-860-1945
路線名等	鍛冶台線		担当課長名	森林整備課長 石黒信一
箇所名	鍛冶台線(横手市雄物川町大沢)		担当者名	主幹(兼)班長 小坂安孝
総合計画との関連	政策コード	N	政 策 名	豊かな自然と調和した個性あふれる農林水産業の振興
	施策コード	05	施 策 名	豊富な森林資源の循環利用による林業の推進
	指標コード	02	施策目標(指標)名	林道・基幹作業道密度

1. 事業の概要

事業期間	H03 ~ H16 (14年)	総事業費	11.6億円	国庫補助率	5/10
事業規模	森林管理道 幅員 5.0m 延長 9,967m 利用区域面積 577ha				
事業の立案に至る背景	<p>当該路線にかかる利用区域面積577haの内75%を占めるスギ人工林について、間伐等森林整備を早急に推進するため、また、水資源のかん養など公益的な機能の持続的な発揮のための維持管理に必要な路網整備が求められていた。</p> <p>また、集落間短絡道としての機能も併せ持つ路網の整備が求められていた。</p> <p>利用区域内にある小学生等の自然観察会や市民の憩いの場として利用されている「いこいの森」へのアクセス道としての路網整備も求められた。</p>				
事業目的	<p>林業労働環境の改善と森林施策範囲の拡大を図り、適切な森林管理に役立てる。</p> <p>既設作業道と有機的に連絡することにより、効率的な森林施業の推進や高性能林業機械の導入による林業生産コストの低減を図る。</p> <p>集落間の短絡道路として、国道等の被災時における応急的にバイパス機能を果たす。</p> <p>「いこいの森」へのアクセス道として、市民の森林へのふれあい機会を増進させる。</p>				
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		当初計画	最終	<p>最終コスト比較</p> $C / C = (0.85)$ <p>最終費用便益比</p> $B / C = (3.43)$	
		事業費	1,350,000	1,153,910	
	経費内訳	工事費	1,320,000	1,128,316	
		用補費	0	0	
		その他	30,000	25,594	
	財源内訳	国庫補助	675,000	576,955	
		県債	303,000	129,000	
		その他	337,500	288,478	
		一般財源	34,500	159,477	
	事業内容	W = 5.0m L = 9,700m	W = 5.0m L = 9,967m		
事業終了後の問題点	特になし				
住民満足度等の状況 (事業終了後)	<p>満足度を把握した対象 受益者 一般県民 (時期:平成18年 9月)</p> <p>満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審査会 ヒアリング インターネット その他の方法(具体的に 市・県主催の自然観察会及び部落座談会において聞き取り)</p> <p>満足度の状況</p> <p>市及び森林組合主催の座談会で受益者や森林施業従事者等から「林道と作業道が接続となって、効率的できめ細かな施業が出来るようになった」。また、「いこいの森へのアクセスが容易となった」。「学校行事としてバスで森林体験学習が出来るようになった」等の意見が寄せられている。</p>				
上位計画での位置付け	雄物川地域森林計画に整備路線として計画されている。 あきた21総合計画における施策「豊富な森林資源の循環利用による林業の推進」を支援する事業				
関連プロジェクト等	雄物川流域森林・林業活性化アクションプログラム 間伐等推進5カ年対策				

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止 指摘事項 特になし																											
	指摘事項への対応 特になし																											
	<table border="1"> <tr> <td>指 標 名</td> <td colspan="4">県全体における林道・基幹作業道密度</td> </tr> <tr> <td>指 標 式</td> <td colspan="4">林道・基幹作業道密度 = (林道延長 + 基幹作業道延長) / 民有林面積</td> </tr> <tr> <td>指 標 の 種 類</td> <td>成果指標</td> <td>業績指標</td> <td>低減指標の有無</td> <td>有 無</td> </tr> <tr> <td>目 標 値 a</td> <td colspan="2">7 m/ha</td> <td rowspan="2">データ等の出典</td> <td rowspan="2">林道事業実績報告書</td> </tr> <tr> <td>実 績 値 b</td> <td colspan="2">6 m/ha</td> </tr> <tr> <td>達成率 b / a</td> <td colspan="2">81 %</td> <td>把握の時期</td> <td>平成18年 6月</td> </tr> </table>	指 標 名	県全体における林道・基幹作業道密度				指 標 式	林道・基幹作業道密度 = (林道延長 + 基幹作業道延長) / 民有林面積				指 標 の 種 類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	目 標 値 a	7 m/ha		データ等の出典	林道事業実績報告書	実 績 値 b	6 m/ha		達成率 b / a	81 %		把握の時期
指 標 名	県全体における林道・基幹作業道密度																											
指 標 式	林道・基幹作業道密度 = (林道延長 + 基幹作業道延長) / 民有林面積																											
指 標 の 種 類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無																								
目 標 値 a	7 m/ha		データ等の出典	林道事業実績報告書																								
実 績 値 b	6 m/ha																											
達成率 b / a	81 %		把握の時期	平成18年 6月																								

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 結 果
有 効 性	住民満足度の状況 A B C 受益者や森林施業従事者等から、森林整備が効率的に実施できるようになった。また「いこいの森」を利用した観察会など盛んになったとの意見が出されている。	A
	事業の効果 A 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満 今までに、間伐等を主体に利用区域面積の28% (採択基準は10%以上)、162haの森林施業を実施している。今後も未着手だった森林の整備は拡大する。	C
	事業の経済性の妥当性 A B C B / C が 3 . 4 3 と林道事業施行要件の 1 . 0 以上を大幅に上回っており、経済性の妥当性は高い。	A
効 率 性	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし 地形に沿った無理のない線形を採用し、極力残土量を少なくした事、当初想定していたよりは岩盤の出現が少なかった事に伴い減額となった。	C
	A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い) 当初事業計画に沿って順調に整備が進み有効性・効率性も高いことから、事業実施の妥当性は高いものと判断される。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等 (対応方針)

再生産可能な資源である森林の整備の推進及び生産コストの縮減に寄与できる基盤施設として、土工量の縮減や再生材の利用等、コスト縮減に積極的に取り組み、効率的な事業施行に努める。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

終了箇所評価判定点検表

(様式 8 - 1)

(1) 各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度の状況	a 住民満足度を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点)	
		b 住民満足度を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が低い	1				
		c 住民満足度を把握していない	0				
	二 事業目標の達成状況	a 達成率が100%以上	2	2		B:有効性はある (1~3点)	
		b 達成率が80%以上100%未満	1				
		c 達成率が80%未満	0				
計			4	4		A	
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	費用便益比	a B/Cが、国庫補助採択基準がある場合はそれ以上その他の場合は1.5以上となっている	2	2	A:効率性は高い (2点)	
			b a、c以外	1			
			c B/Cが、1.0未満	0			
	二 コスト削減の状況(費用便益比が算定できない場合)	a 当初と比較して最終コスト削減率が20%以上	2	0		B:効率性はある (1点)	
		b 当初と比較して最終コスト削減率が20%未満	1				
		c 当初と比較して最終コスト削減率がなし	0				
計			2	2		A	

(2) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A	
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		